



# JSQC ニュース

No.320

発行 一般社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス グローバル時代における日本の品質管理に根差した概念
- 2-私の提言 三足のわらじ
- 2-ルポルタージュ 第362回事業所見学会ルポ
- 3-第361回関西事業所見学会ルポ/7月入会者紹介/デミング賞
- 4-各賞表彰/行事案内/第42年度役員体制役割分担

## グローバル時代における日本的品質管理に根差した概念 — JSQC規格 “品質管理用語” を踏まえて —

第38・39年度 標準委員会委員長/前田建設工業(株) 村川 賢司

### 時代とともに変わるもの

言葉は生きものとして時々刻々と移ろっていく。文化庁の「国語に関する世論調査」によると、一時しのぎを意味する「姑息」を“ひきょうな”ととらえる人、また失望してぼんやりとしている様子を意味する「慚然」を“腹を立てている様子”の意味にとらえる人は、7割を超える。また、働く人の座右の銘ともいえる「不言実行」をもじって作られた「有言実行」が広辞苑(第六版)に載るなど、言葉の使われ方はその是非を問わず時代とともに揺らぎ、意味が変化していくのが常である。

加えて、グローバル時代を迎えて政治、経済、文化などの様々な領域で空間的・時間的な距離が著しく縮まり、グローバル社会の健全な発展へ向けて、透明性や公正性、国際的に共有できる概念や規範づくり、非関税障壁の撤廃などが強く訴求されている。

品質管理の分野においても、ISO9000シリーズに代表される国際標準が、時代の要請に併せて進化しているが、日本の文化や風土に沿った適用において一方ならない苦慮—例えば品質管理用語の解釈相違など—を経験している。

### JSQC規格 “品質管理用語” の意義

このような背景のもとで、JSQC規格(日本品質管理学会規格)の皮切りとして、品質管理に関する147用語の定義

が、その概念とともに公開された。このJSQC規格は、世界標準との整合への配慮を欠くことなく、品質管理を実践する人にとって日本の文化や風土を踏まえて、実務で活かせる用語の定義が不可欠であるとの認識のもとで発行された。

ISO9000シリーズの浸透によって、マネジメントシステムの整備が進んだ反面、JIS Z 8101:1981の統計用語以外の部分の定義が廃止されたことなどから、品質管理の実践で基本となる用語の概念が分かりにくくなった面が否めない。用語の定義のように品質管理に関する重要な概念や規範は、様々な領域の研究、実践、応用において基盤となるものであると同時に、日本の文化や風土に根差した日本人の感性に馴染んでいなければ、実務で活かすにくい。このような観点から、品質管理の実践に不可欠な概念や規範の拠り所となるJSQC規格づくりが現在進められつつある。

### グローバル時代を先導するメッセージ

2012年のノーベル平和賞が欧州連合(EU)の27か国に授与される報は、受賞対象国でも動揺があったと聞く。この授賞には、平和への貢献とふたたび分裂の道を歩まないよというノーベル賞委員会のメッセージが込められており、強いインパクトを伴った。

第2次世界大戦後の日本経済の復興に貢献し、また世界の品質管理へ影

響を及ぼしたとされる日本の品質管理の概念や規範は、グローバル時代においてISO9000シリーズなどの開発へ寄与したと考えている。さらに、ISO9004(組織の持続的成功のための運営管理—品質マネジメントアプローチ)は、日本発のJIS Q 9005(品質マネジメントシステム—持続可能な成長の指針)を重要な基本文書に位置づけて改正された。これらの事例は、日本的品質管理に根差す概念や規範を明確なメッセージとして発信することが、国際的な枠組みを先導し、長期的な視点で国益をもたらすとの示唆を含んでいる。

### 品質管理学会が担う使命

マネジメントシステムの共通テキストを用いるISO9001の改正作業が始まった。この機会を逃さずとらえて、JIS Q 9005やJSQC規格 “品質管理用語” に例えられるように日本の文化を深く宿してはいても、世界の品質管理をリードし得る特長のある管理技術・固有技術を研究開発し、明確な形で世に問うことが、日本の将来の礎となり、ひいては健全なグローバル社会の発展に資するのではないだろうか。品質管理に関する長年の研究成果の蓄積などの多くの知見を有する当学会が果たす役割は極めて大切であり、学会員諸氏による品質管理の発展を期する諸活動への期待が高まっている。

## ● 私の提言 ●

## 三足のわらじ

大阪大学 大学院情報科学研究科 森田 浩



二足のわらじとは、異なる種類の職や担当を兼ねることをいう。同じようなことを掛け持ちしていても、二足のわらじとは言わないらしい。私は日本品質管理学会（JSQC）の他に、日本オペレーションズ・リサーチ学会（ORSJ）や日本経営工学会（JIMA）にも所属している。これらの学会は、ある面では同じものを対象としているので、これらの学会で活動しているからといって、三足のわらじならぬ、二足のわらじをはいているとは言わないということである。これらの学会は、その視点が違うのだと若いころに聞か

された。JSQCでは品質、ORSJではコスト、JIMAでは生産性らしい。当時、なるほどと変に納得したものであった。

実際のところ、興味や観点はやはり違うのだろうか。生産計画に対しては、ORでは最適化によってコスト最小となるスケジュールを考える。QCでは工程内不良を出さないような生産管理によって品質を確保しようとする。IEでは生産性を上げるべく作業効率を改善する。たとえば、納期に間に合うようにスケジュールを最適化して求めたとしても、不良品が出れば納期には間に合わない。人員配置の効率化を図ったとしても、生産性が上がるとは限らない。品質を確保するのはハード的な側面が強いが、それをより効果的にす

るには数理的最適化は不可欠である。また、スケジューラなどの導入によるシステム化が行われても、それを実効あるものにするための管理技術も必要である。TQM活動は、これらをすべて包括するような取り組みが行われているものと考えてはいるが、QCではIT技術やデータ活用においては具体的な最先端技術についての議論は少ない。逆にORでは個別の案件に対するシステム化については目覚ましい成果が上がってきているが、それが本当の改善につながっていることの議論は少ないように思われる。

学会での活動がすべてではないものの、大学関係者でもそれぞれの学会に参加して共通にお会いする方はあまり多くはない。同じ会社の方にお会いしても学会によっては違う方である。それはそれで交流が広がるのでよいことではあるが、どうしても垣根を感じてしまう。やはり三足のわらじをはいているのだろうか。いや一足のわらじで動き回れるようにしたいものである。

### 第362回 事業所見学会 ルポ

## 富士ゼロックス(株) 横浜みなとみらい事業所 (R&Dスクエア)

梅雨明けの日差しが強い7月24日(火)、第362回事業所見学会が富士ゼロックス(株)横浜みなとみらい事業所(R&Dスクエア)で開催された。横浜みなとみらい21地区の中でも、ひときわ斬新な外観デザインの20階高層ビルのほぼ全フロアが同社のR&Dの牙城である。今回は、同社の研究開発の取組みとそのオフィスを見学する企画である。見学会前半がビル全容の紹介とフロア見学、後半は同社が力を入れている「お客様共創ラボラトリー」の紹介である。

フロア見学では、オープンコミュニケーションと呼ぶ間仕切りなし・壁なしの大部屋でゆったりとした執務スペース、打合せコーナーやカフェテリアを拝見した。随所に見られる洒落たアートワークがアクセントとなり、印象的である。

同社のR&D方針は、お客様の課題解決を通じて価値

創造を支援するシステムやツール開発である。キーワードは「共創」、キーコンセプトは「あつまる/ぶつかる/うまれる」である。問題意識の高い人々が集まり、課題解決に向けて意見を出しあい、最適解を出すという意味合いである。2段階のビジネスステージがあり、「オープンラボラトリー」でお客様の抱える課題を抽出、明確化し、「セキュアラボラトリー」で確実な成果を得よう商品化/サービス化を行うのである。

見学会後半はオープンラボラトリーにて、数件の事例が丁寧に紹介された。「オフィスワークの見える化」は、バブルチャートを利用して、社員の現在地・集積・移動などがリアルタイムに画面表示可能なツールである。設計の検図に役立つ「イメージ差分抽出サービス」は参加者から驚嘆の声があがったほどである。

同社が、複写機(モノ)メーカーから課題解決策Solution(コト)を提供する価値創出企業へと大きく変貌しつつあることがよく理解できる内容であった。

最後に、ご多忙中にもかかわらず長時間ご対応いただいた同社の皆様に誌上を借りてお礼を申し上げます。

入倉 則夫(職業能力開発総合大学校)

## 第361回関西 事業所見学会 ルポ

### 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター

第361回事業所見学会が、平成24年7月27日に独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センターに於いて参加者26名で行われた。同所は平城宮跡に隣接し、古都奈良の文化遺産を総合的に研究する目的で設立され、文化財の保存・修復・整備等に関する研究を行っている。

今回は、特に昨年3月の東日本大震災で被災した文化財、その中でも対応に急を要する古文書や紙本彩色等の水損した紙資料の救援（レスキュー）活動の報告を聴き、その後埋蔵文化財センター内における最先端分析活動等の現場見学を行った。

まず被災した文書等のレスキュー活動では、膨大な水損紙資料をクリーニングする前に、カビや腐敗を夏場までに防ぐことが緊急課題であり、冷凍倉庫の確保に大変苦勞し、さらに乾燥処理するために当研究所の

他、全国の博物館、大学、教育委員会等との協力で真空凍結乾燥処置を実施しているとの報告があった。

次にセンター内の見学に移り、「保存科学研究室」では、丸木舟一艘を処置できる真空凍結乾燥機による水損紙資料や大型木材処置の方法、及び藤ノ木古墳から出土した剣の解析や保存等の説明を受けた。「環境考古学研究室」では、1～2mm程度の骨片からでも鳥、魚、人等のどの部位かを判別する専門家の説明を、また「遺跡・調査技術研究室」では、三次元計測技術や地中レーダーによる発掘調査の効率化の説明を受けた。さらに「年代学研究室」では、マイクロフォーカスX線CTやデジタル画像技術と相関分析やt検定等のSQC手法活用により、非破壊測定で一年位の精度の年代特定ができる年輪年代学の説明を受けた。

これらの研究成果は埋蔵文化財の調査方法等に留まらず、考古学、建築史学、美術史、歴史学のほか自然災害等にも活用されているという。日ごろ馴染みの少ない研究分野だけに、丁寧に対応して頂いた埋蔵文化財センターの皆様にご心より感謝申し上げます。

長谷川 隆男（元 ㈱力ネカ）

## 2012年7月の入会者紹介

2012年7月12日の理事会において、下記の通り正会員18名の入会が承認されました。

（正会員18名）○河道 貴宏（河道製作所）  
○西田 誉司基（ダイセイ）○石原 秋彦（日本マイクロコーティング）○中村 隆久（新晃工業）○本田 光男（ダイキン工業）  
○木戸 泰裕（スミテックス・インターナショナル）○江渡 寛展○小楠 貴宏（矢崎エナジーシステム）○長浦 伸二（ニチコン大野）○奥田 哲司（ジェイテクト）○稲垣 淳（シーテック）○芳武章（上五島石油備蓄）○伊地知 晋平（GEヘルスケア・ジャパン）○中原 洋一（富士通九州ネットワークテクノロジーズ）  
○佐護 毅（持田製薬工場）○副田 知宏（東静工業）○高垣 龍一（ドトールコーヒー）○水嶋 敏夫（トヨタ車体）

正会員：2382名

準会員：99名

賛助会員：157社212口

公共会員：22口

デミング賞委員会（委員長 米倉 弘昌）において、2012年度のデミング賞大賞、デミング賞各賞、日経品質管理文献賞の受賞者が決定し、授賞式は経団連会館にて11月14日に執り行われました。

1. デミング賞大賞（旧：日本品質管理賞）  
Tata Steel Limited  
Rane (Madras) Limited  
Lucas-TVS Limited
2. デミング賞本賞  
中尾 真 氏 株式会社ジーシー 代表取締役社長
3. デミング賞普及・推進功労賞（海外）  
Janak Mehta 氏 Chairman & Managing Director, TQM International Pvt. Ltd.
4. デミング賞（旧：デミング賞実施賞）  
SRF Limited, Chemicals Business（インド）  
Mahindra & Mahindra Limited, Farm Equipment Sector, Swaraj Division（インド）
5. 日経品質管理文献賞（文献名五十音順）
  - (1)「原因分析—構造モデルベース分析術—」  
飯塚 悦功、金子 龍三 著
  - (2)「JSQC選書18 工程能力指数—実践方法とその理論—」  
永田 靖、棟近 雅彦 著
  - (3)「新製品・技術の開発と信頼性工学—信頼性のコンセプトによるマネジメントの進め方—」  
宮村 鐵夫 著
  - (4)「見える化があなたの会社を変える—効果の上がる見える化の理論と実践—」  
久保田洋志 編著

## 各賞表彰

第42回通常総会において、第41年度最優秀論文賞、研究奨励賞2件、品質技術賞1件、品質管理推進功労賞5氏、JSQC Activity Acknowledgment賞の授賞および表彰が行われた。

### 【最優秀論文賞】

『タグチのRT法における同一次元でない連続量データへの適用方法』

大久保 豪人氏 (早稲田大学)

永田 靖氏 (早稲田大学)

「品質」42, 2, pp. 86-102 (2012)

### 【研究奨励賞】

『ロジスティック回帰モデルにおける弱併合可能性について』

水 関 裕 人 氏 (大阪大学 現・(株)リコー)

「品質」42, 1, pp. 139-147 (2012)

『顧客満足度とマーケットシェアの関係メカニズムについての国際比較研究』

アプレート・グルミレ氏 (東京工業大学 現・(株)日本総合研究所)

エルバス・ボリス氏 (東京工業大学)

「品質」Vol. 42, 3, pp. 95-105 (2012)

### 【品質技術賞】

『企業内品質教育再考—教育を仕掛ける側と受ける側のハザマで—』

光 藤 義 郎 氏 (JUKI(株))

「品質」Vol. 42, 2, pp. 30-40 (2012)

### 【2012年度 品質管理推進功労賞】

尾 辻 正 則 氏 (一財)日本科学技術連盟 元 住友重機械工業(株)/住友建機製造(株)

小 杉 敬 彦 氏 トヨタ自動車(株)

藺 田 俊 江 氏 元 (一財)日本科学技術連盟/(株)日科技連出版社

新 家 達 弥 氏 日立オートモティブシステムズ(株)

三 田 保 則 氏 元 パナソニック(株)

### 【第41年度 JSQC Activity Acknowledgment賞】

佐 野 雅 隆 氏 早稲田大学 現・東京理科大学

安 井 清 一 氏 東京理科大学

## 行 事 案 内

### ●第3回 科学技術教育フォーラム

テーマ：科学技術立国を支える問題解決教育

日 時：2012年12月26日(水)9:50～17:30

会 場：成城大学 3号館 003教室

プログラム：

(0)開催趣旨

鈴木和幸

(TQE特別委員会委員長)

(1)“情報科”における問題解決教育

岡本敏雄

(日本情報科教育学会会長)

(2)“数学科”新学習指導要領と問題解決学習

長尾篤志 (文部科学省)

(3)世界中に広がった問題解決法とQCサークル活動

中條武志 (JSQC会長/中央大学)

(4)日本再生への問題解決教育の在り方  
鈴木洋司 (富士ゼロックス(株))

(5)数学における問題解決学習の在り方  
新井 仁 (国立教育政策研究所)

(6)IB教育の理念と実践

クインシー・亀田 (玉川学園)

パネルディスカッション

司会：椿 広計

(統計数理研究所)

参加費：無料

詳 細：ホームページをご覧ください。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

申込方法：申込みフォームからお申し込みください。

<http://www.jsqc.org/q/news/2012/12/26/order72/order.html>

### 行 事 申 込 先

JSQCホームページ：[www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)

本部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail：[apply@jsqc.org](mailto:apply@jsqc.org)

## 第42年度役員体制決まる

会 長	中條 武志	中央大学
副会長	大藤 正	玉川大学
”	中西 清司	NECフィールディング
理 事	綾野 克俊	東海大学
”	伊藤 誠	筑波大学
”	岡田 慎也	ダイキン工業
”	兼子 毅	東京都市大学
”	國澤 英雄	中部学院大学
”	鈴木 秀男	慶應義塾大学
”	田村 泰彦	構造化知識研究所
”	中島 宣彦	日本科学技術連盟
”	永田 靖	早稲田大学
”	橋本 紀子	関西大学
”	平岡 靖敏	日本規格協会
”	平林 良人	テクノファ
”	藤木 覚	NECフィールディング
”	水嶋 敏夫	トヨタ車体
”	八重口敏行	トヨタ車体
”	山田 秀	筑波大学
”	渡辺 喜道	山梨大学
学会理事	安藤 之裕	技術士
”	入倉 則夫	職業能力開発総合大学校
”	光藤 義郎	JUKI
”	渡辺美智子	慶應義塾大学
監 事	荒井 秀明	コマツ
”	棟近 雅彦	早稲田大学
顧 問	坂根 正弘	コマツ
”	鈴木 和幸	電気通信大学

## 第42年度役員役割分担表

論文誌編集	◎鈴木(秀) ○山田
学会誌編集	◎田村
広 報	◎大藤
事 業	◎綾野
研 究 開 発	◎永田
規 定	◎平岡
会員サービス	◎渡辺(喜)
選 挙 管 理	◎兼子
庶 務	◎兼子
会 計	◎中島
最優秀論文賞/研究奨励賞	◎大藤 ○鈴木(秀)
品質技術賞	◎中西 ○田村
品質管理推進功労賞	◎中條 ○中西 ○大藤
国 際	◎山田
標 準	◎平林
綜 合 企 画	◎中條 ○中西 ○大藤
研究助成特別	◎國澤
ANQ支援特別	◎山田
QC相談室特別	◎橋本
JSQC選書特別	◎飯塚(悦)
安全・安心社会技術連携特別	◎伊藤
TQE特別委員会	◎鈴木(和) ○渡辺(美)
中 部 支 部	◎水嶋、八重口、國澤
関 西 支 部	◎岡田、橋本
ソフトウェア部会	◎渡辺(喜)
QMS有効性および審査研究部会	◎福丸
医療の質・安全部会	◎棟近

◎委員長、支部長、部会長 ○副委員長、副部会長